

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は掲げている。職員は周知徹底する為、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行なっている。「心こそ大切なれ」をモットーに日々の業務に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和により、職員に意識付けを行なっている。月1回のミーティング時、代表者自ら訓示を行う事がある。また折々の機会に個別に話し、実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の理念をリビングに掲げ理解して頂けるようにしている。運営推進会議時、区長さん等に取り組みを伝え地域に浸透するように図っている。	○	運営推進会議時に施設の活動状況等を報告する。また、それを地域の方に伝えていただけるように連携を図る。
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方には自ら挨拶をするように心がけている。お花や野菜を頂いた事がある。区長さんを通じて独居の方や昼間ひとりの方に遊びに来ていただくようにお願いしている。	○	更に近隣の方と馴染みの関係となれるように日々の挨拶や対応を職員全員が熟知していく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年10月21日浜地区の運動会に参加させて頂いた。入居者、職員共に色々な種目に参加し地域の方と交流できた。1月6日には子ども会からのお誘いがあり「ほっけんぎよ」に参加した	○	地域の行事に参加し、交流が出来るように区長さん等を通じて継続できるように取り組んでいく。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長さんを通じて、地域の色々な行事にも参加させて頂けるようにお願いしている。また、地域も高齢者に遊びにきて頂けるように声かけをお願いしている。	○	地域の高齢者の方が遊びに来て頂けるような開かれた施設となるように取り組んでいく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見出された課題に対し改善計画を立てて実施に取り組んできた。しかし、不十分な点も多く今後も継続して取り組んでいく。	○	改善計画の中で、検討中の項目もあり質の書確保・向上ができるように取り組む。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね3ヶ月に1回開催している。意見交換の場となるように、配慮している。	○	今後、家族の方にも参加して頂けるように個々も家族に働きかけをする。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に会議に参加して頂き意見交換を行なっている。議事録や施設の便り等を地域包括支援センターや長寿介護課に送付している。	○	サービスの質の向上の為、更に連携を図る事が出来るように連絡を密に行なう努力をする。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	長寿介護課や社会福祉協議会との連携を図り、必要な方に活用できるように支援している。	○	職員の研修等への参加。参加後の勉会での報告を随時行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関して学ぶ機会があった。職員に対して、勉強会・ミーティングで周知徹底を図っている。	○	対処法に関して周知徹底していない為、今後徹底できるように取り組みたい。研修への参加、勉強会での報告。マニュアルの中に虐待防止に関してファイルを行なった。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解して頂けるように、時間をかけて説明を行なっている。理解して頂いてるか確認し、疑問や希望等を尋ねながら話を進めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や希望を言えるような、働き かけは行なっている。介護相談員の訪問の 受け入れをした為、今後外部に声を表せる 機会ができる。意見や苦情に対しては、家 族を交えて対応を行なっている。	○	改善経過や結果は支援経過に記録している。 今後は、苦情相談対応のファイルにて共有で できるようにする。また、家族が気軽に相談で きるように、相談箱を1月中旬に準備する。1 1月21日に介護支援相談員派遣依頼書を提 出した。1月16日初回訪問予定されてい る。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	頻回に面会に来られる御家族様には、口答 でお知らせしている。月初めに請求書を送 付する際、入居者の様子や健康状態等をお 知らせしている。金銭出納はコピーを送付 している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族に安心して頂き信頼を得ることがで きる様に、報告は行なっている。面会に来 られた際、現在の状況等報告を行なってい る。家族から希望等を伝えて頂けるような 対応を心がけている。金銭管理に関しては 出納帳を明示し、報告を行いサインを頂い ている。	○	1月中旬に苦情相談箱を設置する。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	代表者・管理者は課題を検討し今後の取り 組みを文書により伝達している。また、 ミーティング時に話し合いを行い介護の質 の向上に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	臨機応変な対応ができる勤務体制をとって いる。緊急時は応援者の確保はできてい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのなじみの関係が継続できるよう に異動を行う際は十分な配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人権を尊重し、個々の能力を生かせる職場となるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の講演や研修に参加している。パート職員も参加の機会はある。	○	啓発活動に至るまでの活動がない為、研修内容を勉強会で報告できるように取り組む。1回/月の勉強会で発表できるようにする。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員にも研修の機会はある。職員が働きながらヘルパー2級の研修に参加している。学んだ事を、勉強会等で発表できるようにしている。	○	職員が研修等の積極的に参加できるように、研修計画を行なう。平成20年度から計画予定表を作成する。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設訪問等で交流する機会はあるが、活動は行っていない。	○	勉強会等の機会を通じて、顔見知りの関係を築き活動の足掛かりを作る。平成20年度を目標とする。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々の職員の話聞き、ストレスやその背景を理解できるように努めている。	○	関連施設(3施設)合同忘年会開催 福利厚生施設(社宅)の整備
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	休憩室は2階のスタッフ室に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身及び家族等から話を聞き、何を望まれるか等、把握する努力は行なっている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族が一番困っている事は何か、望まれる事は何か等、十分に把握し信頼関係を築くよう取り組んでいる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し、対応できる事は出来る限りの努力は行なっている。他の事業所につなげる事もある。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様、御家族様が希望された時は、体験入所を行なう事がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分には行く所がないと言われる時、ここが家だし、皆家族である事を話しています。お手伝いしていただき「ありがとう」と声かけると、当たり前だから言わなくて良いよ、諭されます。些細な事で、支えあっている事を学びます。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、家族の方への情報提供を必ず行ないます。また、家族の希望等をお尋ねし、ケアプランに反映できるように行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、自室で話すことが出来るように配慮している。面会が少ない方については、電話や手紙で生活状況等をお知らせしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様を支えて来られた方たちとも、顔なじみとなり、面会に来られた時会話が出るように努めている。友人の方たちが、親しく尋ねて来て頂ける配慮は行なっている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の力関係やある事で優位になる場面もあるが、上手く関ることが出来るように言葉かけ等にて配慮は行なっている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で退所されても、退院後の生活に不安をもたれないように、再入所を希望されれば支援は行なっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を尋ねて把握するように努めている。把握困難な状況の方が多く、きわめて難しい。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、キーパーソンとなる方だけでなく、子供様やケアマネージャー等からも情報収集を行い把握できるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活のリズムを把握し、その人が希望する援助が出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族様の意見・希望等をお尋ねし、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変更が必要が生じた場合には家族等と話し合いを行っている。状況に応じて介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々のケアの実践状況の記録は行なっている。記録により情報収集を行ったり、話し合いを行いながら介護計画の見直しをおこなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしている。早期退院が出来、施設に戻ってくる事が出来るように連携を図っている。医師の指示があれば、点滴等の通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の役員さん等との連携を図る事が出来るように取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネージャーからの施設への紹介等もある為、連携は図っている。また、訪問理美容や・訪問歯科等の利用が出来るように支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの連携は図っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診介助は行っている。なじみの病院受診を希望されている場合は、家族が了解されて受診されている。緊急時の関連病院受診を承諾されれば、受診介助を行っている。入所時に、家族には説明を行い、同意を得ている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状が進行したと思われる時は、家族に状態を説明し、家族に専門医へ相談に行ってもらっている。定期受診の際は、日常状態を報告し医師との連携が図れるようにしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護支援専門員と看護師の兼務で常勤者の確保はできている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携を行い、早期退院に向けた協働が行なえるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等と話し合いを行っている。施設での看取りを考慮し、往診出来る医師と連携を図る事が出来るように取り組みは行なっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る事・出来ない事の見極めて、かかりつけ医との連携を図っている。看取りに対する準備は行なっている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージが極力少ないように情報収集を行い、対応を行なっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら介助を行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者様と過ごす時間を通じて希望や関心を見極め、1人ひとりに合わせた支援を行なっている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事無く、各自のペースに合わせた支援を行なうように心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回の訪問理美容を利用している。家族の了解を得た上で、本人様の希望されるサービスが提供できるように支援している。また、季節の行事時には化粧を行なっている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も徐々に手伝いが困難となられてきている。野菜を揃えたり、食器の片付けの手伝いをして頂いている。メニューや、盛り付け等にも配慮し、食事に楽しみが持てるように考慮している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全員の嗜好に合わせることは出来ないが、週2回は手作りおやつを提供している。季節に応じた果物を提供し楽しめるようにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握している。特に昼間はトイレで排泄できるようにトイレ誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1・2階を隔日入浴としている。入浴できない方や拒否される方は清拭で対応している。	○	希望者は、毎日入浴に改善する。拒否される方はいる為、最低確実に入浴できるようにチェックを行なう。現在、シュミレーションを行い、検討中。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間はなるべく離床を促しているが、昼寝を希望される方には休息できるように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る仕事を無理強いする事なく、手伝って頂きながら張り合いを持った生活が出来るように支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には、小額のお金を自分で持っている方は居られる。基本的には施設で管理している。買物を希望された時は、買物に出かけたり代理で買物を行なっている。	○	買物に行きたいと言う希望がある為、天候やスタッフの配置を考慮して買物日を設ける事が出来るように検討中。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩、お宮参り等の見守り介助を行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜の花の季節には、家族と共に町民に森で手作り弁当を持って花見を行っている。時に、ドライブにお連れすることがある。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして欲しい、家族から本人に伝えて欲しいという場合には適切に取り次ぎ支援している。手紙も少ないが同様に支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時は、自室で話すことが出来るように配慮している。面会が少ない方については、電話や手紙で生活状況等をお知らせしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、月に1回行なう勉強会等で適時に周知を行なっている。身体拘束は行っていない。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や昼間は玄関の施錠は行なっていない。夜間のみ、玄関は施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通じ、見守り・介助を行い、安全に配慮している。また、昼間自室で休まれる時は安否確認を適時行っている。夜間は1時間毎に巡視を行なっている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状態を把握し、状態に応じた対応を行なっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを作成し、勉強会やミーティングを通じて周知している。救命講習を受講し知識の取得に取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、月に1回行なう勉強会等で適時に周知を行なっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年の防災訓練を行なって、安全に避難できる方法を身につけることができるように取り組んでいる。地域の協力を得ることができるよう、区長さんと災害時協力依頼締結書を交わしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族・代表者、介護支援専門員、看護師等交えて、対応策を検討するように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化等について、早急に看護師に報告している。看護師は状態観察を行い、受診、救急車、往診等の対応を行なっている。注意事項、水分出納、バイタル等観察事項の指示を随時行なう。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとり個別に保管管理を行っている。1回分を小分けし、内服漏れがないようにし、服薬前まで3回は確認する。薬の内容が変わった時は随時、説明し周知できるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを行ない、排便の状態を把握している。緩下剤や水分・食物により排便コントロールを行なっている。毎日、午前中に体操を行い、体を動かすように取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを行っている。1人で出来ない方は、介助で口腔ケアを行なっている。義歯洗浄及び嗽介助を支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の形態や量、キザミ食・トロミ食等、1人ひとりの状態に応じた食事が提供できるように考慮している。水分管理が必要な時は、出納チェックを行なっている。摂取量が少ない方には、高カロリーの代替食等提供できるように取り組んでいる。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、周知徹底を図っている。流行時には、随時再指導を行い、マニュアルの強化を図った。	○	昨年末、感染性胃腸炎が集団発生した。保健所の指導により、再度マニュアルを確認し、手洗い消毒等徹底して行なった。今後も、取り組みを継続し、予防管理を行う。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理者の手洗い、ラビネット消毒の励行。食材は毎日、購入しその日に使い切るようにしている。まな板や付近は夜勤者がハイターで消毒を行なっている。包丁・調理鉋等はアルコール消毒を行なって使用している。毎水曜日は冷蔵庫内のラビネット消毒・点検を行いチェックを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に手作りの表札があります。花壇には1年中花を楽しんで頂ける様に、職員が植え替えている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・洗面所・トイレ・リビング等には花瓶に花やグリーンを生けて季節感を出している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビやソファを配置し、思い思いの場所で好きなように過ごしていただけるように図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃、使われていたタンスや鏡台等を持ち込まれ、慣れ親しんだ品々に囲まれ、快適に過ごしていただけるようになっている。また、個々の状態に応じたレイアウトを考慮し、安心して過ごせる生活空間を提供できるように配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えや、室温の調節には十分に配慮している。空調運転マニュアルにより、管理している。おむつ交換後等には、居室の換気を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・シルバーカー・杖を利用される方が多く、施設内はバリアフリーとなっている。安全に車椅子自走が出来る。居室等も安全に自立した生活が出来るように配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわかるように、表札を掲げている。花や飾りにより、自分の居室の目印となるように配慮している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にテーブルと椅子を配置している。また、鶏小屋の前に椅子を配置し、えさをあげて楽しめるようにしている。花を植えたり畑に野菜を植えて、楽しむ事ができるように図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
100	—	○職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

何事に於いても、入居者様を最優先に考え、質の良いサービスが提供出来るようにスタッフ一丸となり邁進しています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は掲げている。職員は周知徹底する為、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行なっている。「心こそ大切なれ」をモットーに日々の業務に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和により、職員に意識付けを行なっている。月1回のミーティング時、代表者自ら訓示を行う事がある。また折々の機会に個別に話し、実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の理念をリビングに掲げ理解して頂けるようにしている。運営推進会議時、区長さん等に取り組みを伝え地域に浸透するように図っている。	○	運営推進会議時に施設の活動状況等を報告する。また、それを地域の方に伝えていただけるように連携を図る。
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方には自ら挨拶をするように心がけている。お花や野菜を頂いた事がある。区長さんを通じて独居の方や昼間ひとりの方に遊びに来ていただくように御願している。	○	更に近隣の方と馴染みの関係となれるように日々の挨拶や対応を職員全員が熟知していく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年10月21日浜地区の運動会に参加させて頂いた。入居者、職員共に色々な種目に参加し地域の方と交流できた。1月6日には子ども会からのお誘いがあり「ほっけんぎよ」に参加した	○	地域の行事に参加し、交流が出来るように区長さん等を通じて継続できるように取り組んでいく。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長さんを通じて、地域の色々な行事にも参加させて頂けるように御願している。また、地域も高齢者に遊びにきて頂けるように声かけを御願している。	○	地域の高齢者の方が遊びに来て頂けるような開かれた施設となるように取り組んでいく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見出された課題に対し改善計画を立てて実施に取り組んできた。しかし、不十分な点も多く今後も継続して取り組んでいく。	○	改善計画の中で、検討中の項目もあり質の書確保・向上ができるように取り組む。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね3ヶ月に1回開催している。意見交換の場となるように、配慮している。	○	今後、家族の方にも参加して頂けるように個々も家族に働きかけをする。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に会議に参加して頂き意見交換を行なっている。議事録や施設の便り等を地域包括支援センターや長寿介護課に送付している。	○	サービスの質の向上の為、更に連携を図る事が出来るように連絡を密に行なう努力をする。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	長寿介護課や社会福祉協議会との連携を図り、必要な方に活用できるように支援している。	○	職員の研修等への参加。参加後の勉会での報告を随時行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関して学ぶ機会があった。職員に対して、勉強会・ミーティングで周知徹底を図っている。	○	対処法に関して周知徹底していない為、今後徹底できるように取り組みたい。研修への参加、勉強会での報告。マニュアルの中に虐待防止に関してファイルを行なった。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解して頂けるように、時間をかけて説明を行なっている。理解して頂いてるか確認し、疑問や希望等を尋ねながら話を進めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や希望を言えるような、働き かけは行なっている。介護相談員の訪問の 受け入れをした為、今後外部に声を表せる 機会ができる。意見や苦情に対しては、家 族を交えて対応を行なっている。	○	改善経過や結果は支援経過に記録している。 今後は、苦情相談対応のファイルにて共有で できるようにする。また、家族が気軽に相談で きるように、相談箱を1月中旬に準備する。1 1月21日に介護支援相談員派遣依頼書を提 出した。1月16日初回訪問予定されてい る。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	頻回に面会に来られる御家族様には、口答 でお知らせしている。月初めに請求書を送 付する際、入居者の様子や健康状態等をお 知らせしている。金銭出納はコピーを送付 している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族に安心して頂き信頼を得ることがで きる様に、報告は行なっている。面会に来 られた際、現在の状況等報告を行なってい る。家族から希望等を伝えて頂けるような 対応を心がけている。金銭管理に関しては 出納帳を明示し、報告を行いサインを頂い ている。	○	1月中旬に苦情相談箱を設置する。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	代表者・管理者は課題を検討し今後の取り 組みを文書により伝達している。また、 ミーティング時に話し合いを行い介護の質 の向上に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	臨機応変な対応ができる勤務体制をとって いる。緊急時は応援者の確保はできてい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのなじみの関係が継続できるよう に異動を行う際は十分な配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人権を尊重し、個々の能力を生かせる職場となるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の講演や研修に参加している。パート職員も参加の機会はある。	○	啓発活動に至るまでの活動がない為、研修内容を勉強会で報告できるように取り組む。1回/月の勉強会で発表できるようにする。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員にも研修の機会はある。職員が働きながらヘルパー2級の研修に参加している。学んだ事を、勉強会等で発表できるようにしている。	○	職員が研修等の積極的に参加できるように、研修計画を行なう。平成20年度から計画予定表を作成する。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設訪問等で交流する機会はあるが、活動は行っていない。	○	勉強会等の機会を通じて、顔見知りの関係を築き活動の足掛かりを作る。平成20年度を目標とする。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々の職員の話聞き、ストレスやその背景を理解できるように努めている。	○	関連施設(3施設)合同忘年会開催 福利厚生施設(社宅)の整備
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	休憩室は2階のスタッフ室に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身及び家族等から話を聞き、何を望まれるか等、把握する努力は行なっている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族が一番困っている事は何か、望まれる事は何か等、十分に把握し信頼関係を築くよう取り組んでいる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し、対応できる事は出来る限りの努力は行なっている。他の事業所につなげる事もある。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様、御家族様が希望された時は、体験入所を行なう事がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分には行く所がないと言われる時、ここが家だし、皆家族である事を話しています。お手伝いしていただき「ありがとう」と声をかけると、当たり前だから言わなくて良いよ、諭されます。些細な事で、支えあっている事を学びます。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、家族の方への情報提供を必ず行ないます。また、家族の希望等をお尋ねし、ケアプランに反映できるように行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、自室で話すことが出来るように配慮している。面会が少ない方については、電話や手紙で生活状況等をお知らせしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様を支えて来られた方たちとも、顔なじみとなり、面会に来られた時会話が出るように努めている。友人の方たちが、親しく尋ねて来て頂ける配慮は行なっている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の力関係やある事で優位になる場面もあるが、上手く関ることが出来るように言葉かけ等にて配慮は行なっている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で退所されても、退院後の生活に不安をもたれないように、再入所を希望されれば支援は行なっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を尋ねて把握するように努めている。把握困難な状況の方が多く、きわめて難しい。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、キーパーソンとなる方だけでなく、子供様やケアマネージャー等からも情報収集を行い把握できるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活のリズムを把握し、その人が希望する援助が出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族様の意見・希望等をお尋ねし、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変更が必要が生じた場合には家族等と話し合いを行っている。状況に応じて介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々のケアの実践状況の記録は行なっている。記録により情報収集を行ったり、話し合いを行いながら介護計画の見直しをおこなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしている。早期退院が出来、施設に戻ってくる事が出来るように連携を図っている。医師の指示があれば、点滴等の通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の役員さん等との連携を図る事が出来るように取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネージャーからの施設への紹介等もある為、連携は図っている。また、訪問理美容や・訪問歯科等の利用が出来るように支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの連携は図っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診介助は行っている。なじみの病院受診を希望されている場合は、家族が了解されて受診されている。緊急時の関連病院受診を承諾されれば、受診介助を行っている。入所時に、家族には説明を行い、同意を得ている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状が進行したと思われる時は、家族に状態を説明し、家族に専門医へ相談に行ってもらっている。定期受診の際は、日常状態を報告し医師との連携が図れるようにしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護支援専門員と看護師の兼務で常勤者の確保はできている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携を行い、早期退院に向けた協働が行なえるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等と話し合いを行っている。施設での看取りを考慮し、往診出来る医師と連携を図る事が出来るように取り組みは行なっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る事・出来ない事の見極めて、かかりつけ医との連携を図っている。看取りに対する準備は行なっている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージが極力少ないように情報収集を行い、対応を行なっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら介助を行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者様と過ごす時間を通じて希望や関心を見極め、1人ひとりに合わせた支援を行なっている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事無く、各自のペースに合わせた支援を行なうように心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回の訪問理美容を利用している。家族の了解を得た上で、本人様の希望されるサービスが提供できるように支援している。また、季節の行事時には化粧を行なっている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も徐々に手伝いが困難となられてきている。野菜を揃えたり、食器の片付けの手伝いをして頂いている。メニューや、盛り付け等にも配慮し、食事に楽しみが持てるように考慮している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全員の嗜好に合わせることは出来ないが、週2回は手作りおやつを提供している。季節に応じた果物を提供し楽しめるようにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握している。特に昼間はトイレで排泄できるようにトイレ誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1・2階を隔日入浴としている。入浴できない方や拒否される方は清拭で対応している。	○	希望者は、毎日入浴に改善する。拒否される方はいる為、最低確実に入浴できるようにチェックを行なう。現在、シュミレーションを行い、検討中。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間はなるべく離床を促しているが、昼寝を希望される方には休息できるように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る仕事を無理強いする事なく、手伝って頂きながら張り合いを持った生活が出来るように支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には、小額のお金を自分で持っている方は居られる。基本的には施設で管理している。買物を希望された時は、買物に出かけたり代理で買物を行なっている。	○	買物に行きたいと言う希望がある為、天候やスタッフの配置を考慮して買物日を設ける事が出来るように検討中。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩、お宮参り等の見守り介助を行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜の花の季節には、家族と共に町民に森で手作り弁当を持って花見を行っている。時に、ドライブにお連れすることがある。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして欲しい、家族から本人に伝えて欲しいという場合には適切に取り次ぎ支援している。手紙も少ないが同様に支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時は、自室で話すことが出来るように配慮している。面会が少ない方については、電話や手紙で生活状況等をお知らせしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、月に1回行なう勉強会等で適時に周知を行なっている。身体拘束は行っていない。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や昼間は玄関の施錠は行なっていない。夜間のみ、玄関は施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通じ、見守り・介助を行い、安全に配慮している。また、昼間自室で休まれる時は安否確認を適時行っている。夜間は1時間毎に巡視を行なっている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状態を把握し、状態に応じた対応を行なっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを作成し、勉強会やミーティングを通じて周知している。救命講習を受講し知識の取得に取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、月に1回行なう勉強会等で適時に周知を行なっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年の防災訓練を行なって、安全に避難できる方法を身につけることができるように取り組んでいる。地域の協力を得ることができるよう、区長さんと災害時協力依頼締結書を交わしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族・代表者、介護支援専門員、看護師等交えて、対応策を検討するように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化等について、早急に看護師に報告している。看護師は状態観察を行い、受診、救急車、往診等の対応を行なっている。注意事項、水分出納、バイタル等観察事項の指示を随時行なう。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとり個別に保管管理を行っている。1回分を小分けし、内服漏れがないようにし、服薬前まで3回は確認する。薬の内容が変わった時は随時、説明し周知できるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを行ない、排便の状態を把握している。緩下剤や水分・食物により排便コントロールを行なっている。毎日、午前中に体操を行い、体を動かすように取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを行っている。1人で出来ない方は、介助で口腔ケアを行なっている。義歯洗浄及び嗽介助を支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の形態や量、キザミ食・トロミ食等、1人ひとりの状態に応じた食事が提供できるように考慮している。水分管理が必要な時は、出納チェックを行なっている。摂取量が少ない方には、高カロリーの代替食等提供できるように取り組んでいる。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、周知徹底を図っている。流行時には、随時再指導を行い、マニュアルの強化を図った。	○	昨年末、感染性胃腸炎が集団発生した。保健所の指導により、再度マニュアルを確認し、手洗い消毒等徹底して行なった。今後も、取り組みを継続し、予防管理を行う。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理者の手洗い、ラビネット消毒の励行。食材は毎日、購入しその日に使い切るようにしている。まな板や付近は夜勤者がハイターで消毒を行なっている。包丁・調理鉋等はアルコール消毒を行なって使用している。毎水曜日は冷蔵庫内のラビネット消毒・点検を行いチェックを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に手作りの表札があります。花壇には1年中花を楽しんで頂ける様に、職員が植え替えている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・洗面所・トイレ・リビング等には花瓶に花やグリーンを生けて季節感を出している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビやソファを配置し、思い思いの場所で好きなように過ごしていただけるように図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃、使われていたタンスや鏡台等を持ち込まれ、慣れ親しんだ品々に囲まれ、快適に過ごしていただけるようになっている。また、個々の状態に応じたレイアウトを考慮し、安心して過ごせる生活空間を提供できるように配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えや、室温の調節には十分に配慮している。空調運転マニュアルにより、管理している。おむつ交換後等には、居室の換気を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・シルバーカー・杖を利用される方が多く、施設内はバリアフリーとなっている。安全に車椅子自走が出来る。居室等も安全に自立した生活が出来るように配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわかるように、表札を掲げている。花や飾りにより、自分の居室の目印となるように配慮している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にテーブルと椅子を配置している。また、鶏小屋の前に椅子を配置し、えさをあげて楽しめるようにしている。花を植えたり畑に野菜を植えて、楽しむ事ができるように図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ全ての家族と		
				②数日に1回程度		
			○	③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

何事に於いても、入居者様を最優先に考え、質の良いサービスが提供出来るようにスタッフ一丸となり邁進しています。